

同 期 会 の 報 告



□ 中51回関東地区同期会

今年も早、6月に入り、恒例の第一日曜日ー1日午後3時から銀座の「らん月」で同期会を開催した。常連の友がぼつぼつと部屋にくるなり、「下車駅をひとつ手前で降りてしまった」「地下鉄から地上へ出たがしばらく迷った」などの発言が続く。我々もいよいよ80歳を超えたのだなあ実感。

今回は、昨年まで常連だった佐藤賀夫氏と高木光朗氏が体調を崩して欠席とのことで、結局6名の出席となった。

6名で淋しい会になるかと心配したが、記憶力抜群の金子氏の詳細な思い出話が口火となり、他の出席者たちもこれに触発されて、次から次へと話が発展。「頑張れ行軍」「運動部のこと」「先生や上級生のこと」などの記憶が尽きることなく続いた。一人が妙高山の高さは2,446メートルと言ったら、即座に他の人から南葉山は949メートルと答えがかえってきた。これが老人の会とは思えないほど楽しい会となって、いつのまにか定刻の6時を30分も過ぎていた。

最後の方で、高田高校の後輩が現在、日本の経済界やその他の社会で重要な地位におられ、大勢活躍していることが話題となり、高田高校はやは

り今でも立派な教育がなされている学校だということに、一同思いを致した次第。

出席者が少なくなったことで、来年この会をどうするかと相談したが、結局来年も行うことにし、次のとおり決定した。

6月の第一日曜日（6月7日）午後1時「銀座らん月」（開会時刻を早く変更したので間違わないようにしてください。）

今回も終始お世話になった伊崎幹事長に、皆さんを代表して心からご苦労様と申し上げます。

「らん月」を出て銀座通りにでた。通りは「歩行者天国」で若い人たちでいっぱい。今回は誰からも「二次会」をとの声がかからないで、それぞれ家路を目指して解散となった。

宮澤 定雄（中51回）



伊崎友義、金子重男、神田浩一、塙 昭吉、宮川三郎、宮澤定雄

□ 祝 喜寿「高中二期会」(第11回)

◇平成19年11月14日 於：やすね

前回上越で開催したのは「古希の祝い」(平成12年)で、あれから7年、今回は時が経過しているのでせいぜい30人位かなと思ひ、会場に行った。配付資料の名簿を見ると予想以上の47名(当日2名欠)の参加者、嬉しい誤算だった。遠路は仙台の青山健君、伊丹から千原(旧姓岡田)稔君、また車椅子で倉石靖夫君の参加もあった。

総会は松縄教一君の司会により、物故者の黙禱に始まり、金子直君より配付資料に添って「高中二期会」の発足当時から本日の喜寿の会まで詳細な報告と欠席者のメッセージ、それと校舎改築寄付金のこれから納付の方に協力依頼等あった。また、前会長に代わり、金子直君が新会長に全員一致で推薦され、総会は終了した。

次いで懇親会に入り、千原稔君の乾杯に

より開催された。久しぶりに見る顔、名前と顔が一致しない人、レギュラー参加者等、再会を喜び、健康を祝い、苦楽を共にした当時を偲び談笑、また健康状態を案じる反面大いに痛飲。アトラクションとして芸妓の舞踊に目を細め、あつと言う間に時間が経過した。

閉会も近づき、恒例により大声で名高い岩島正男君の音頭により、校歌の斉唱。お開きに竹田篤二君の万歳三唱と、次回は3年後「傘寿(80歳)」に開催の提唱あり。全員が了承し、名残惜しみながら次回を約し散会した。

なお、今回も盛大な会を企画された金子直会長を始め、幹事の皆様に僭越ながら代表して感謝する。

荻野 仁(高1回)



□ 一九会 喜寿パーティーに39名集まる

去る平成20年7月21日(水)高田の幹事の骨折りで高中一九会は赤倉ホテルに集まった。総勢39名の多数だった。皆各界で名を成し、また現在も未だ現役で活躍されている面々ばかりだ。

・17:00 赤倉ホテルラウンジに全員集合

先ず物故者法要。赤倉ホテル内佛前にてクラスメイト僧侶、高状良純・松山了夫両君による読経。旧制中学及び新制高校同時在籍者約340名中既に98名の物故者が出ているので其の霊を慰めるため。

・17:30 記念写真撮影 事務連絡等

・18:00 パーティーとなり、盛り上がる

我々の一九会の名前の謂れだが、卒業年度を以って会の名称にする同期会が多い中、我々戦時中入学組は旧制中学五年制で入学、途中四年制に短縮された。中学二年で陸軍幼年学校に進んだ者、四年で旧制高校に進んだ者、そのまま四年で卒業した者、再び五年制になり五年で卒業した者(昭24年第57回卒)、そして新制高等学校二年に編入さ

れ卒業した者(高校第2回)と皆区々で学歴が同じでないで、仕方なく入学年度を以って会の名前とした次第。

戦中戦後を高田中学で過ごしたため入学した時は確

か250名程だったと思うが、途中疎開入学者等を受け入れて増え340名程になり、1組から5組の教室は立錐の余地も無く、通路もやっと通れる狭さ、列の一番後ろの人は壁を背中にして腰掛けている始末だった。

翌22日(木)は朝食後ゴルフ組と観光組と二手に分かれることになった。ゴルフ組は赤倉C.C.でプレーすることになり、観光組はホテルのマイクロバスで昨年親鸞聖人越後御流罪800年に因み、遺跡などが整備されたので訪ねる事になった。小生、棒は縦には振れるが横に振るのは苦手なので(現在も剣道修行中、現在教士七段)観光組に参加することにする。

そのコースはホテルを出発——恵信尼の里(板倉)——浄興寺(重要文化財として16億円かけて補修を終了)——国府別院——親鸞上陸の地をめぐる——直江津駅前で昼食、解散した。当然我々関東勢は越後湯沢経由で帰宅した。

林 永治(高2回)



□ ユニークな高田高・北城高4回生 合同同期会

我々高4回生は、戦後学制改革の端境期に在学し、中等教育男女別学制度のアンカーでありました(1952年3月卒業員273名)。その影響からか、東京地区では20数年前から、高田高と北城高4回生が、合同で同期会を催しています。自由でユニークな集団で、会の運営は、双方から選んだ幹事兼事務局(現在、〔高高〕佐藤、田村〔北城〕塩浜、関沢の諸君)が中心となり、多様な活動を行っています。

直近1年余りの主な企画は、

- ①2007.6 横須賀米海軍基地、イージス艦、潜水艦及び日露海戦旗艦「三笠」の見学と老舗海軍料亭「小松」での会食並びに東郷平八郎、山本五十六、米内光政、鈴木貫太郎氏外の直筆書を拝観。(本誌第25号に村山和夫氏(中56回)が記された「海将・東郷平八郎が頸城の地に残したもの」があり、一同感銘を受けました。)
- ②2007.10 全体食事会(帝国ホテル)

- ③2007.11 ゴルフ・旅行
(大熱海国際・松月苑)
- ④2007.11 忘年会(横浜萬珍楼本店)
- ⑤2008.3 カラオケ懇親会
(バナナパンチ)
- ⑥2008.6 円覚寺、東慶寺等で、紫陽花、花菖蒲、岩煙草、特別公開の岩がらみ等を参観し、ローストビーフ鎌倉山本店で会食
- ⑦2008.9 相模湾クルージングと会食
(葉山マリーナ)
- ⑧2008.10 全体食事会(新宿ライオン)

以上、夫々の行事に10~40名前後の参加があり、お互いに元気を貰い、情報を交換し、親睦を深め、老いてなお、人生の充実を目指しています。

一方で、健康を害し、心ならず参加出来ない友がおり、同期一同は、早期に全快されることを願ってやみません。また、合同に異を唱え不参加の友もおります。



高高で学んだ誇りと青雲の志を胸に巣立った少年達も、既に後期高齢者適齢期となり、合同同期会で活躍した吉田、平岡、野田君等、志半ばにして旅立った友が既に55名と聞き、驚くとともに、旧友の在りし日の姿を想い、心より冥福を祈るものであります。

野口崑兵衛(高4回)

□ 高5「東京一義会」報告

5月12日、高5卒の関東在住者を中心とした「東京一義会」の懇親会を一年ぶりに。屋形船で、江戸前のあなごテン普拉を味わいながら、隅田川下りとしゃれ込みました。

参加者は、遠く上田より荒井君、四日市より野崎君の参加を得て、総勢26名。船を苦手と称する某氏が参加できなかったのは残念ではあるが。

食事とアルコールが進むにつれ、恒例の「オレ・オマン」のウン十年前の世界に戻る連中、マイクを握って日頃の鍛錬の成果を披瀝する連中、この会に参加できる連中は相変わらず元気、さらに秋にはゴルフの計画をせよとか、幹事泣かせの連中ばかり(筆者もその一人?)。

高5卒も、今年度は前期高齢者の最後の年、来年度はついに後期老年者ならぬ後期高齢者医療制度の恩恵(?)を受ける年となりました。

昭和16年の尋常小学校から国民学校への改革、昭和22年の新制中学、同じく25年の男女共学の新制高校、の全てで第一期生、何か教育制度改革のモルモットにされたような感じのする年次であります。その所為か、我々はまともな年次と思っているが、「君らの仲間には結構変わった連中が多い」とよく言われる。しかし、なんと言われようが、元気でこのような会に参加していくのが、我々変わり者、高5の務めと思っております。

会は大いに盛り上がり、12月1日の例会を確認しての解散となったが、来年度は後期高齢者だというのに、帰り道の両国駅の近くに着いた途端、話はまだ終わらないと二次会へと繰り出す猛者が何人かいた。恐るべし高5。

水澤 進 (高5回)



□ 高6回 同期会報告

昭和29年卒業 高卒6回生の集まりである「東京福祿会」は休むことなく毎年総会を続けてきたはずだった。が、新年早々先輩が電話で「去年の総会はなかったが、今年は大丈夫か」の電話。会長以下70も過ぎてボケが始まり、すっかり忘却。

思えば卒業50周年記念総会も、4年も昔のことになってしまった。せかされての総会である。急ぎ計画、4月20日と急遽決定。ただの総会ではつまらないと毎回会員の名誉を祝し、祝賀会として開催している。さて今年が目玉はと女性代表肥後さんに相談、即それは玉泉さんと森成さんでしょう、と相成った。

主人公はお二人、玉泉八州男さんは19年暮れ12月に「日本学士院会員」に推挙されたと全国紙で祝砲。主な研究はシェイクスピアの研究である。また、森成元さんは東京通信病院での長年の功勞に対して「瑞宝中綬章」を受章された。同期会報告であるから功績の詳細は略させていただきます。

会場は私学会館アルカディア。恩師もお招きせねばとご案内する。幹事の大変なミスからお出で頂いた恩師は佐藤春朗先生た

った一人になってしまった。

祝賀会である。庄山悦彦さんのユーモアたっぷり機智に富んだ祝辞から始まった。つづいて恩師とはいえ、若さいっぱいの佐藤春朗先生がお祝いの言葉を述べられた。

主賓玉泉八州男さん、森成元さんお二人の挨拶になった。お二人は同期の連中を前にして、それぞれ高尚なる専門のお話を予定されていたようだが、高校での同期の仲間である一同を見回して、頷きながら難しいことは抜きにして分かりやすく話された。やや緊張の面持ちであった。

淑女お二人の花束贈呈のあと、乾杯となる。それを合図に一気に、いつもながらの福祿会らしい温かみに満ちた場が変わった。

今回の参加者は45名であった。このところ毎年のように一人、二人と旅立つ友。でも遠路元気に出てきてくれた仲間会うと、卒業年昭和29年がつい昨日のように思い出される。やはり高田での友は最高である。願いはたった一つ、来年も福祿会は賑々しく、そしてまた、祝宴のあげられることを。

樫野 利介 (高6回)



□ なでしこ会（高6女子のクラス会）

女性の平均寿命が世界一とはいえ、古希を過ぎると足腰など不自由な方も増え、東京一泊のクラス会は少人数の8名の出席でした。

とは言え、新潟から来られた三浦さんが新しく発見された岡本太郎の巨大壁画を鑑賞して来られたり、沼田の熊木さんは東京初出展、奈良東大寺の日光月光菩薩を拝観してくるというように、まだまだお元気な方もおられます。

湯島の東京ガーデンパレスに3時に集まり、夕食までの時間を近くの湯島聖堂、湯島天神に参り、ギリシャ正教の大聖堂“ニコライ堂”にも参りました。荘厳な教会内で、夕べのミサの聖歌隊は印象深いものでした。

ディナーパーティーは、人数がほどよく、

ゆったりと和やかなひとときを過ごせました。このように遠路集まり、歓談できることの幸せに感謝いたしております。

なでしこ会の朝は、肥後さんの馥郁とした一服の“おうす”（抹茶）で始まります。私たちの集いを、豊かな気分にするおもてなしです。朝食後、皇居東御苑のゆったりとした自然の中を散策しました。昼食は丸ビルの高所で、目まぐるしく変わり行く東京駅周辺を眼下に見られるのも興味深いものでした。

二年後、高田での集いとなります。藤沢周平の『密謀』を読んで、直江兼続、上杉景勝の活躍した春日山周辺を、新たな眼で訪ねてみたいと思っております。

池橋 代根（高6回）



□ 高12回 「東京^{みそこ}三十五会」の報告

今年、満67歳を迎える三十五会の面々だが酒量はいささかも落ちていない。機会があるごとに集まり、とことん飲んでいる。

2月9日(土)、六本木「胡同四合坊」での新年会を皮切りにゴルフ、外国旅行、校友会総会と行事が続く。

今年から、滋野会長が笠原会長へと替わったが、総会の参加人数の年次別トップは堅持している。

8月7日～9日は有志が「池の平」で上越組と合流し、登山組、ゴルフ組と分かれそれぞれ楽しんだ。

登山は花の百名山「根子岳」(2,270m)

への挑戦である。頂上では上越組が持参したアイスボックスの冷えたビールと枝豆、トマトなどで恒例の小宴を催したようで、これを楽しみに毎年山に登っているというから不謹慎も甚だしい。

夕方、風呂上りに飲んだビールの量が半端でなく、500mlの缶ビール2ダースは瞬間に無くなってしまった。その後、食堂で大宴会となり、その後、二次会が深更まで続いた。

對酒當歌 人生幾何

(酒に対しては当に歌うべし 人生幾何ぞ)

和久井 博 (高12回)



□ 高14回 「高悠会」の報告

5月31日、私達高14回生は、2年ぶりに同期会「高悠会」を芝弥生会館にて催した。6月中旬の支部総会目前ということもあって、出席者17名と少数ではあったが参加者が少ないことの利点もあった。いつもは、ひとり何分という短い近況報告の持時間が、ゆっくりとれたことである。

今まで知らなかった〇〇ちゃんとは家が近所で互いに悪ガキでよく遊んだとか、大学時代にバイトで東京の私立女子中学校のスキーの指導員を赤倉でやっていたことが縁でその私立中学へ就職し、今では校長職となっているとか、高校生時代何かのきっ

かけで男子生徒のA君と女性徒のBさんがいっしょに春日山へ登ったと漏れうかがっているが、真偽の程はBさん、そんなことはあったのですか？ ワクワクするような質問があったりで大いに盛りあがった。今まで、ほとんど触れることも語ることもなかった幼少時代、高校生時代、そして今の自分を語れる貴重な時間をもてたことで、今後の深い人間関係が結ばれていくのではと期待している。

雨に煙る竹芝栈橋を背に、またの再会を約束して別れた。

山田 佳子 (高14回)



□ 高18回 東京41会

昭和41年に卒業した東京圏在住者を主にした同期会が「高田高校 東京41会」です。毎年、11月に開催し、楽しい時間を過ごしています。2007年は、還暦を迎えるという特別な年で、「還暦なんのその まだまだ元気会」と銘打って、有楽町・国際フォーラム内の東天紅に27人が集まりました。

卒業以来、初めて参加する人、毎年参加する人など、様々でしたが、おおいに飲み、来し方を振り返り、そしてこれからの夢を語り合いました。

この会のもう一つの楽しみが2次会です。同期の大森君が経営する銀座のお店へと移動し、我が家のような気安さの中、カラオケで盛り上がります。最後は校歌斉唱、「高田の四季」合唱で閉会となります。今年からは、現役を離れる人、第二の人生を歩む人など、様々な環境が待ち受けていると思いますが、この会だけは変わらず続いていくことでしょう。

松苗 哲哉（高18回）



□ 高21回 深雪会新年会'08

深雪会は今回で七回目、場所は昨年と同じ新宿プリンスホテル「トリアノン」(2008年1月19日)。新井裕一さんにご手配いただきました。出席者は27名(男性18名、女性9名)で、初参加は、新保修司さん、中島(豊岡)美代子さん、野口(松井)裕子さんの3名。当時の思い出をスピーチしてもらいました。今初めて聞くような話もあったり…。そのうち、皆さんそれぞれから、当時の秘話、逸話などを暴露してもらいましょうか…(冗談です)。

この会は2000年の発足。最初の頃、当日に小雪がちらついたことが3回程ありました。正に深雪会にふさわしい日(?)だと妙に感じ入ったものでした。在学当時は毎年雪が多く、汽車通学の私には難儀でしたが、昨今、まとまった雪を見ることは滅多にありません。これも地球温暖化の影響なので

しょうか。

最近、ちらほらと、同級生のリタイア情報が聞かれるようになってきました。これから会では、退職後の事やら老後の生活の事などが話題の中心になってくるのでしょうか。高校生の時、将来の夢を熱く語ったように、第二の人生のことを真剣に語り合うことでしょうか。そう言えば、高21回生は、あと2～3年で還暦を迎えるのです。もうそんな年なんだと、ふと横の同級生の顔を拝見すると、高校時代の面影そのままでした。あの時代の時がストップしたかのように。そんな思いにふけている間にお開きとなりました。

私は、転勤を機に故郷上越へ戻ることになりました。会の思い出と一緒に、そして、また会う日を楽しみにしながら…。

峰村 義和 (高21回)



□ 高26回同期会

毎年、一瞬にして高高時代にタイムスリップする日があります。手帳に二重丸がついています。10月の第三土曜日です。

今年（2007年）もやってきました。場所は有楽町。「あれ？彼は確か高校時代はかっこよかったイケメンなのに、すっかり頭も淋しくなっちゃって、オジサンしているなあ〜」、「彼女はクラスのマドンナだったんだっけ。今はずいぶん貫禄あるよね」など。ずいぶん年輪を刻んでしまっている人、全く変わらない人、さまざまだけど、すぐわかります。そして気持ちは、高高生のあの頃に。

幹事さん持参のアルバムがあります。見

たいやら見たくないやら、でもやっぱり見てしまい話がはずみます。もう孫もいる人もいる。時の流れを感じつつ、更に話が盛り上がります。今年も地理でお世話になった（私は成績悪くご迷惑おかけしました）山崎先生も、変わらずお元気にご参加していただいて、楽しい一時を過ごしました。

ちょっとメタボが気になる年齢になってしまいましたが、みんなまだまだ元気！これからも元気！1年後、また会う日を楽しみに。

幹事さんお疲れ様でした。

伊藤 聡（高26回）

